

大串ひろやす通信

発行責任者 千代田区議会議員 大串ひろやす 〒102-0083 千代田区麹町2丁目14-305 Tel/Fax 03-3221-1554 <http://www5d.biglbe.ne.jp/~ogusi/>

この通信では

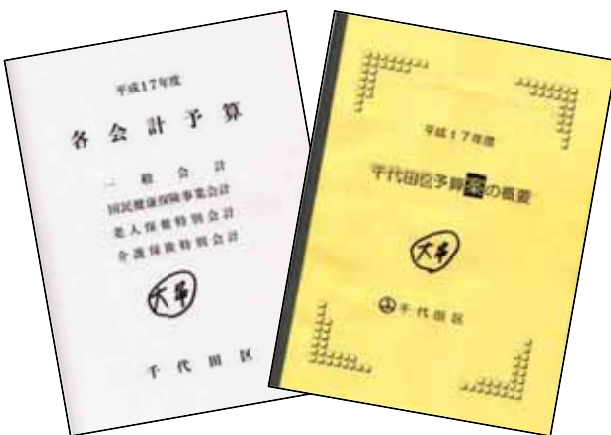
以下の4点についてご紹介しています。



ページ	コーナー	内 容
1	トップページ	千代田区平成17年度予算が決まりました！
2-3	私の一般質問	子ども施策推進に際しての基本的な考え方(理念)は！
4	ちょっと教えて	「子育て施策の財源に関する条例」について教えて！
4	朗 報	学校図書予算が増えました。ハローブックにも予算が付きました。
	参 照	ドロシー・ロー・ノルトの詩「子ども」 CAPプログラム 子どもの居場所づくり

17年度予算が決まりました！

子育てと教育に重点配分！



予算説明書と「予算の概要」

平成17年度予算がきました。全会計の予算規模は約530億で前年比 2.9%の減となりました。その中で、子ども家庭費は11.6%増、教育費は同じく15.6%増となったことが17年度予算の特徴となりました。全議員による予算特別委員会を構成して延べ4日間にわたり活発な審議がなされました。

保健福祉文教分科会において、私は 社会を明るくする運動、入院生活支援、障害者の自動車駐車場助成、子育て広場・総合相談、子どもの居場所づくり、学校図書、コンミュタ教育、ハローブック、図書館業務委託運営、大学図書館との連携、などの項目について質問しました。

総括質疑では 「予算の概要」を作成する目的は議会の予算審議の参考資料としての意味と広く区民の方に読んでいただき税金の使い道について知っていただくという目的もある。そこで 「予算の概要」のさらなる活用方法を工夫すべきでは。平成17年度を初年度とする第2次中期財政計画が発表された。そこで この表から私たちは何をどう読むべきなのか。単なる財政収支推計にならないためにもっと説明(メッセージ)を加えるべきではないのか。以上の2点質問を行いました。

子ども施策に必要な理念とは！

私の一般質問



1. 区長に子ども施策推進にあたり基本的な考え方、理念を問う



一般質問の最後にドロシー・ロー・ノルトの詩を紹介する

参照 1

「子ども」

ドロシー・ロー・ノルト

批判ばかりされた 子どもは
 非難することを おぼえる
 殴られて大きくなった 子どもは
 力にたよることを おぼえる
 笑いものにされた 子どもは
 もの言わずにいることを おぼえる
 皮肉にさらされた 子どもは
 鈍い良心の もちぬしとなる
 しかし、激励を受けた 子どもは
 自信を おぼえる
 寛容にであった 子どもは
 忍耐を おぼえる
 賞賛を受けた 子どもは
 評価することを おぼえる
 フェアプレーを経験した 子どもは
 公正を おぼえる
 友情を知る 子どもは
 親切を おぼえる
 安心を経験した 子どもは
 信頼を おぼえる
 可愛がられ 抱きしめられた 子どもは
 世界中の愛情を 感じとることを おぼえる

質 国連子どもの権利条約の精神を生かし、子どもを単なる保護の対象として位置づけるのではなく、一人の人間として尊重し、子どもが参加と意見表明を保障し、今のままの存在を認めてあげるような施策推進が今こそ行政に求められているのではないのでしょうか。これまでの家族や地域社会の関係だけでは子どもにかかわる問題状況は打開できなくなっており、新たな子ども観に根ざした子ども施策が必要となっています。区は、この度「子育て施策の財源の確保に関する条例」を提案しました。

そこで改めて区長に、子ども施策推進に必要な基本的な考え方、理念とは何か、お伺いします。

答 ~区長答弁~
 子育て施策を実施するに当たっての基本的な考え方は、我々大人は、社会全体として本当に子どものためになることは何かを考えることだろうと思います。すなわち、子どもは子どもなりに生きる力を持っております。子どもが秘めている自ら育つ力を大切にし、子ども自身が自らの存在がかけがえのないものであることを自ら学び、命の大切さ、他者の存在を尊重し、他者とともに生きる意味を理解することが重要だろうというふうに認識をしております。今後、子どもにかかわる基本的な考え方も含め本区の行動計画をさらに発展、充実するための論議の場として、仮称でございますが「千代田区次世代育成対策協議会」の中で、本区の行動計画の進捗状況、具体的な施策のあり方などを論議し、子育て施策のさらなる展開を図ってまいりたいというふうに思っております。

「子どもの権利」を最優先に!

2. 小学校でのCAP再開を!

質 従来型の子どもへの暴力や虐待防止の方法は、子どもは暴力に対して何もできないから、大人の力で子どもを守ろうという考え方に依っています。子どもの行動範囲を制限したり、規制しようとするのでした。これでは、回避ばかり教えるので万が一そのような暴力にあってもあった自分が悪いと自らを責めてしまわないかと心配です。これらのことを考えると、従来の規制型防止策だけでは決して十分とは言えません。そこで、再度小学校でのCAPプログラム（参照2）再開を提案します。それは保護者を始め、地域の方も、学校の先生方もCAPの理念を理解して子どもに接することが重要なこと、そして何よりも子どもたちが安心・自信・自由という子どもの権利があることを知り、自分を大切にすることを学ぶことができるからです。見解をお伺いします。

答 ~教育委員会事務局次長答弁~
学校のみならず家庭や地域社会との連携を強化しながら、児童・生徒が犯罪から身を守る方法を身につけるセーフティー教室実施に切りかえたところがございます。今後、その成果を学校、保護者等と検証し、キャップを含めたより効果的なプログラムを検討してまいりたいというふうに考えております。



3. 子どもの意見表明と参加のための仕組みづくりを!

質 すべての子どもに自由な意見表明と参加の権利を保障するための仕組みを今こそ子どもに身近な自治体として作っていかなくてはなりません。そこで、子ども会議の開催を提案します。また種々の情報に対して子ども自身が容易にアクセスできる方法も整備する必要がありますが合わせてお伺いします。

答 ~政策経営部長答弁~
「青少年モニター制度」や中等教育学校に対する「子ども評議会」を開催するなどの取り組みを行ってきました。今後も、機会あるごとにこうした子どもが自ら意見を表明する場を設定していく考えであります。そうした際には、子どもに対する情報の提供につきましても、効果的な方法を検討し、子どもが活発に意見を表明できるようにしてまいります。

参照2

CAPプログラムとは

CAPとはChild(子ども)のC、Assault(暴力)のA、Prevention(防止)のPの略で「子どもへの暴力防止プログラム」と約され、子どもたちがあらゆる暴力から自分を守るための方法を学ぶ参加体験型の人権プログラムです。そしてその理念とするところは、子どもの本来持っている力を引き出してあげる。そしてその力を引き出すために、誰にも安心して、自信を持って、自由に生きるそれぞれの権利があることをロールプレイ(寸劇)により参加体験型で教えることとされています。原則クラス単位で子どものためのワークショップ(研究集会)と大人のためのワークショップ2回行われます。このCAPをアメリカより日本に最初に紹介した森田ゆりさんは、人間が本来持っている力を自ら発揮することをエンパワメントと表現します。その思想は「人間はみな生まれながらにしてみずみずしい個性、感性、生命力、能力、美しさを持っている」と。CAPの理念はまさにこのエンパワメントに相当しますと。

ちょっと教えて



朗報



「子育て施策の財源に関する条例」について教えて!

この「子育て施策の財源に関する条例」は、千代田区として今後5年間(平成17~21年度)を子育て支援の重点期間として、子育て環境の整備・充実のための新規・拡充施策に要する経費を積極的に確保することを目的とした条例です。

条例のポイント

この5年間、各年度の特別区民税歳入見込み額のおおむね1%程度の額を子育て環境の整備のための新規・拡充施策に要する経費にあてることとしたものです。確保額は年額にして約1億円程度になります)

この結果、5年後の子育て関連施策の規模は現在の1.5倍程度になります。

昨年度(16年度)の子ども施策関連予算は10億65百万円で今年度のそれは11億89百万円となりました。

各年度の特別区民税歳入見込額が100億円の場合の子ども施策関連予算のイメージは、

年度	16年度	17	18	19	20	21
予算額	11億円	12	13	14	15	16

予算執行に際しどういう理念を持って推進していくのが重要なことは言うまでもありません。今回の本会議質問でも私も含めて4人の議員が区長にその理念を問いました。



1. 学校図書館の予算が増えました! 2. ハローブックに予算が付きました!

小学校図書館の予算は1校当たり30万円増の83万円に、中学校図書館も同じく増額となり1校当たり135万円となりました。学校図書室において子どもが自ら調べて解決するという貴重な経験ができるよう充実するものです。司書教諭の役割も大切になります。図書館の大いなる可能性を子どものときに経験から学ぶことになります。

千代田区版ブックスタートであるハローブックに年間68万円の予算が付きました。保健所で行っている乳幼児健診の際、図書館司書の方が出向き「絵本の読み聞かせ」を行います。赤ちゃんの目の動きや表情に保護者の方も感激し、読み聞かせの大切さが体験できます。

参照3

子どもの居場所づくり

居場所とは、子どもとの人間関係であるという。「それは第一に、どんなことでもこの人なら絶対に安心して問いかけをし、意見表明できるという人間関係です。すべての事柄について、批判したり、拒否したりするのではなく、まず「そう、そうなの。本当に大変ね」と、お子さんの存在をそのまま受け入れる関係ができています。第二に、あなたは親の権威や威厳や、社会的基準を一方的に子どもに押しつけたり、説教するのではなく子どもの悩みをそのまま受け入れ、必要な場合には専門家の力を借りながら、解決に向けてお子さんと一緒に考え、行動しています。このような二つの要素の満たされた人間関係を、私は居場所と呼んでいます。このような居場所が保障されている限り、子どもは必ず自分らしく、しかも他人のことも考えられるような人間へと成長発達することができます。また大人にとっても、この居場所こそが自由の、また幸せの根源です」と。

「子どもの人権を考える」福田雅章監修から

編集後記

今回子ども施策に関する質問は、保育園でのCAPがすばらしいから是非見学に来てとのお電話をいただいたことがきっかけとなりました。CAPのすばらしさを始め、子どもの権利からの視点がすべての子ども施

策に必要なことも理解できました。今後は、「国連子どもの権利条約」のさらなる普及・啓発が必要ですね。

千代田区議会議員 大串ひろやす Tel/Fax 03-3221-1554

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~ogushi/>